

# 第37回 製薬協政策セミナー

## DXが切り拓く次世代医療の展望

～業界を超えた医療DXへ、共創で動かす新たな試み～

# 価値を示し 世界のモデルへ

近年、医療DX(デジタルトランスフォーメーション)は日本の社会保障と産業競争力において極めて重要な役割を担っている。3月10日に開催された「DXが切り拓く次世代医療の展望」(主催:日本製薬工業協会、共催:日本経済新聞社)では、AI(人工知能)創薬やサプライチェーンの安定化など多岐にわたる課題を念頭に、医療DXの価値をいかに「定量化」し、社会実装を加速させるかについて、様々な立場のキーパーソンが議論を交わした。

(肩書は開催時)



### 開会あいさつ



日本製薬工業協会 会長  
宮柱 明日香氏

### 持続可能な社会保障を実現

医療費増大や人口構造変化の課題に直面する日本では、限られた資源をより効率的に活用する仕組みが求められている。その基盤となるのが医療DXであり、多様なステークホルダーの共創が不可欠だ。製薬協では、医療DXの価値の定量化と社会的理解のための取り組みを通じて、限られた医療資源の最適配分を後押しし、持続可能な社会保障の実現と日本型医療モデルの発信につなげていきたい。

### 製薬業界を超え価値定量化

#### メリットの明確化を示す

**安藤** 日本の医療DXが進みにくいのはなぜか。

**塩崎** 日本は国民皆保険で、保険医療の規模が大きく、医療DXを公平性や公正性を保ちながら進める必要があるため時間がかかる。ただ、ようやく基盤が整備されてきたため、今後は導入するタイミングが重要だ。

**先崎** 日本の医療データは、質と網羅性に関してはおそろく世界トップクラスだが、それらが十分に連携されていないのが問題だ。今の医療DXの中でデータ連携を進められれば、日本の医療データ基盤は一気に世界のモデルになり得る。

**牧口** 医療DXの課題に取り組もうとすると、現場では追加業務のように受け取られやすい。現状は制度や運用ルールが慎重なので、研究や利活用の同意、匿名化、審査プロセスをもっと簡便にすることも必要だ。

**宮柱** 塩崎先生の言う「出口」として、医療DXがもたらす価値を測ることが重要だ。まずは利用者が価値を感じないと進まない。定量的な評価で国民や患者にバリューを届け、国全体として動き出す契機にしたい。

**患者のアウトカムが軸**

**安藤** では、何を定量化すれば一般の人にも医療DXのメリットが伝わりやすいのか。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**宮柱** やはり最終的には患者の健康価値だ。患者のアウトカムという共通のKPIに対して、製薬企業、医療機関、行政、テック企業などが協力し合い、一つの大きな医療システムが形成されていくことが重要だ。DXやAIがドライバーとなり、制度と企業、医療が連携することが目指すべき姿だと考える。

**牧口** 患者、医療従事者などのおおの立場に立ったKPIを示し、重要性を実感してもらい、どの仕組みによってどのKPIが何%改善したかを具体的に示すことが求められる。DXが安全と効率の土台だと理解してもらうため、プライバシーや利用目的、アクセスログなどの説明も非常に大事になってくる。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**安藤** では、何を定量化すれば一般の人にも医療DXのメリットが伝わりやすいのか。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**宮柱** やはり最終的には患者の健康価値だ。患者のアウトカムという共通のKPIに対して、製薬企業、医療機関、行政、テック企業などが協力し合い、一つの大きな医療システムが形成されていくことが重要だ。DXやAIがドライバーとなり、制度と企業、医療が連携することが目指すべき姿だと考える。

**牧口** 患者、医療従事者などのおおの立場に立ったKPIを示し、重要性を実感してもらい、どの仕組みによってどのKPIが何%改善したかを具体的に示すことが求められる。DXが安全と効率の土台だと理解してもらうため、プライバシーや利用目的、アクセスログなどの説明も非常に大事になってくる。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**安藤** では、何を定量化すれば一般の人にも医療DXのメリットが伝わりやすいのか。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**宮柱** やはり最終的には患者の健康価値だ。患者のアウトカムという共通のKPIに対して、製薬企業、医療機関、行政、テック企業などが協力し合い、一つの大きな医療システムが形成されていくことが重要だ。DXやAIがドライバーとなり、制度と企業、医療が連携することが目指すべき姿だと考える。

**牧口** 患者、医療従事者などのおおの立場に立ったKPIを示し、重要性を実感してもらい、どの仕組みによってどのKPIが何%改善したかを具体的に示すことが求められる。DXが安全と効率の土台だと理解してもらうため、プライバシーや利用目的、アクセスログなどの説明も非常に大事になってくる。

**塩崎** 様々なステークホルダーの向いている方向が違うため、医療DXは難しい。動機まで踏み込んで、インセンティブに沿った政策設計を細かく行うことが大事だ。価値の見える化は、インセンティブの正しい設計にほかならない。

**安藤** では、何を定量化すれば一般の人にも医療DXのメリットが伝わりやすいのか。



### ディスカッション

#### 医療DXの価値を見える化するための連携と政策

衆議院議員 塩崎 彰久氏  
ゼウレカ Chief Technology Officer 牧口 大旭氏  
日本アイ・ビー・エム 理事、ヘルスケア&ライフサイエンスリーダー 先崎 心智氏  
日本製薬工業協会 会長 宮柱 明日香氏  
日本経済新聞社 編集局総合解説センター編集委員 安藤 淳

### 特別講演

#### 医療DXによる業務効率化や経営効率化の効果等を定量的に示すことの重要性と社会的インパクト・国民への影響

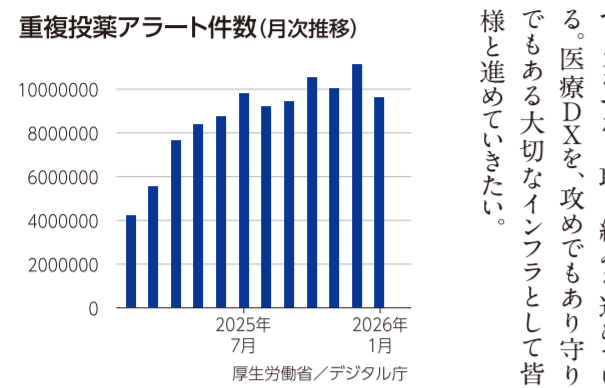


衆議院議員  
塩崎 彰久氏

### 導入促進にインセンティブ

自民党の健康医療情報システム推進合同プロジェクトチーム(PT)では、クラウド・ネイティブなシステムへの移行促進や病院DX支援、全国医療情報プラットフォームの構築などを提言してきた。

厚生労働省がAI・ICT(情報通信技術)活用の実態をアンケート調査したところ、臨床データ集計での業務自動化、看護業務の見守りの効率化やバイタルサインの特定など、導入効果が数値データに出ている分野もあった。この実態を踏まえ、2026年度の診療報酬改定では、業務効率化に対するインセンティブを診療報酬に組み込んだ。ICT活用による看護業務の効率化を条件に、看護職員の配置基準を1割以内で柔軟化する。また、生成AIや音声入力システムの導入により、医師事務作業補助者1人を最大1.3人として配置人数



### 基調講演

#### AI創薬がもたらす定量的インパクト Tokyo-1が拡張する規模・速度・知の循環と創薬の変革

製薬会社のAI関連の投資額は年々増加、創薬研究におけるAIも次々と発表されているが、これらを検証するための人材や計算機のリソースがボトルネックとなっている。また、AIは学習データが豊富な領域では高い精度を発揮するが、新薬研究の未開拓領域ではデータがなく、利活用がうまくいかないケースも多い。そこで、少量・高品質のデータを産出し、AIに学習させてループを回す「Lab-in-the-Loop」が重要になる。このループを研究に根付かせるには、AIのモデルのみならず、計算資源や人材、運用などが必須になってくる。

こうした社会課題にこたえるべく、当社は、ハイスペックなGPU(画像処理半導体)スーパーコンピューターの提供とコミュニティ運営を行う「Tokyo-1」というサービスタを通じて循環を支えている。ローンチから2



### 創薬研究を大幅に効率化

年が経過した今、GPUサーバに加えて、DXソリューションや、それを使用し、AIに学習させてループを回す「Lab-in-the-Loop」が重要になる。このループを研究に根付かせるには、AIのモデルのみならず、計算資源や人材、運用などが必須になってくる。

こうした社会課題にこたえるべく、当社は、ハイスペックなGPU(画像処理半導体)スーパーコンピューターの提供とコミュニティ運営を行う「Tokyo-1」というサービスタを通じて循環を支えている。ローンチから2



ゼウレカ Chief Technology Officer  
牧口 大旭氏

### 基調講演

#### 安定供給におけるDXの役割と課題 サプライチェーン変革の論点



日本アイ・ビー・エム 理事、ヘルスケア&ライフサイエンスリーダー  
先崎 心智氏

### 需給一体型のインフラに

医薬品供給の不安定化は、需給のズレが構造的に増幅される仕組みに起因している。その根底にはデータの断絶がある。感染症流行時に医療側が過剰発注し、増産対応時に流行が収まり返品が起るサイクルが繰り返される背景には、処方データと出荷データが接続されず、地域単位の需給バランスが見えていないことがある。返品情報もサプライチェーン全体では共有されず、実投与のデータなどの把握も難しい。「出荷地域」など、最小単位から見える化するものが、需給把握の起点となる。さらに施設を横断した共有ができれば、地域単位で共同在庫を活用して在庫の偏在を解消できる。こうした供給DXはコスト削減だけでなく、地域医療や国の安全保障(医薬品の安定供給確保)の一環でもある。平時の効率と、有事の強靭(きょうじんせい)シリネス

